

'70

会報



THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

鶴岡ロータリー

第 578 号

1970.11.25 (水)

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや

事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内 ☎ 5775

会報はご家族みんなで読みましょう

四つのテスト

—言行はこれに照してから—

1. 真実か、どうか
is it the truth?
2. みんなに公平か
is it fair to all concerned?
3. 好意と友情を深めるか
will it build goodwill and better friendships?
4. みんなのためになるかどうか
will it be beneficial to all concerned?

〃隔りを取り除こう〃

出席報告

本日の出席 会員数 63名
出席者 44名
出席率 71.43%

欠席者 阿部(公)君、荒明君、早坂(源)君、平田(圭)君、五十嵐(伊)君、五十嵐(一)君、海東君、加藤君、金野君、三浦君、男網君、佐藤(伊)君、佐藤(昇)君、笹原君、佐々木君、辻君、富樫君、鷲田君、藪田君

前回の出席 前回出席率 66.67%
修正出席数 55名
確定出席率 87.30%

マークアップ 五十嵐(一)君—東京築地RC
海東君—山形西RC
阿宗君—新庄RC
林君—上の山RC
阿部(公)君、五十嵐(三)君、三井(徹)君、富樫君、藪田君—温海RC
金井君、嶺岸君、佐藤昇君、谷口君—鶴岡西RC

ビクター 常谷義雄君

スマイル 手塚林治君

ホテルゆらが国観連ホテルとして登録されたため。

会長報告

今度ガバナーの公式訪問があり、昨日協議会を開いたが、その時の内容とか、当クラブに対する示唆があると思うので、それをおききします。

今日の食事にあたり、廖会員のご好意によりチーフコンクがまいり、腕を振った中華料理を召し上げる機をつくっていただいたことを感謝いたします。

料理の名前はよく読めませんが、次のようなもので、後刻廖会員から説明していただきます。

(なお廖会員から、什景春巻、八宝焼売、八宝鶏丁、干焼明蝦などの今日の献立について説明がありました)

佐藤民二郎ガバナーのスピーチ

私は地区ガバナーとして昨日は会長、幹事の懇談会、その後の協議会にのぞみ、今日は例会に出てスピーチをするようにとの指示を受けてまいりました。

差向き職業分類のことで、今手にもつ

ている本は、日本ロータリー50年誌をつくられた神戸ロータリークラブの直木太一郎氏がお書きになったもので、7月の発行であります。この中には日本のロータリーについて新しい示唆もわかり易くまとめて書いてあります。

これをみると新しいことが目につき、ロータリーが今まで皆が考えていたものでないような感じをうけます。今職業分類について読み上げますと

「そのうち職業分類については国際ロータリーでは、職業分類概要が出され88の大分類に大別し、その下に夫々に属する職業を、産業については製造配布小売サービスの4段階その他については夫々の分科に分けて小分類とし、あらゆる職業を網羅していた。

クラブはその地域内にある40以上の職業を選び出し職業分類表をつくって骨格とし、無充填の職業分類を充填することで肉付けし、拳骨たくましいクラブをつくるのが目標であった。

ところがロータリーが、アジア、アフリカ太平洋諸島に拡るとともに、これに適合しない職業が出てきた。米国では科学技術の進歩と文化の向上によって、これまでになかった職業が出てきて、職業分類概要は実状に合わなくなり廃棄された。また巨大なメトロポリスや、それに単一産業による都市、ベッドタウン、教育都市などが出てきて、均衡のとれた会員構成のために10%以内に制限する枠であった大分類も不適当となって廃された。

それに代って職業分類指針が出されたが、これは職業分類をつくる正しい方法を教えるだけのもので、均衡のとれた会員構成については全くクラブに委されることになった。ただあらゆるところに共通支配のすすむ現状において、クラブに対する支配力を制限するため、独専禁止法と同じ趣旨で、同一支配系統の関連職業に対しては尚この10%が維持されている。

ここの同一支配系統の関連職業の解釈をどのように扱うかということを採用上げて論議してもよいと思います。

いずれにしても職業分類は命余でなく、指針であるところに注意しなければならぬのです。それとともに正しい方法を教えるだけのことで、均衡のとれた会員の構成については全くクラブに委されている点に留意さない。

それでクラブの考え方如何によっては、若干今までのような窮屈な考え方でなくともよいということです。

今までの職業分類は、もう時代に合わなくなっております。そういう点を考えれば、小分類に余り拘泥する必要はないと思います。

次にロータリーの若い世代の会員諸君のために、奉仕活動のことがわかり易く書いてありますので朗読を続けます。

「ロータリーは奉仕クラブの一つと云われておりますが、ライオンズのように、奉仕の仕事をするものではない。奉仕をするロータリアンをつくる教育をするところである」

即ち奉仕するロータリアンをつくる教育をするところで、クラブ自体が奉仕することがあっても、それは本質ではない。これはあくまでも個々の会員を教育するのがロータリーの思想であります。

次にスピーチに入ることになります。

私がガバナーノミニーになるについて、私は従来余りロータリーに熱心ではなく、むしろ或程度の抵抗を感じ悩んできたものであります。

大館ロータリークラブは、秋田県としては秋田に次ぐ2番目の歴史をもつクラブであります。今度は秋田地域からガバナーノミニーが出ることになったのですが、大館からということで、初代の会長現に商工会議所の会頭にあたり緑川正雄氏に白羽の矢が立ち、6ヶ月余りも説得を重ね、漸く承諾を得るまでにこぎつけたのであります。このことは穴沢直前ガバナーのガバナーズレーターにも発表されております。

然るに同氏は7月なかば四国地方旅行中に脳溢血で倒れたのです。

9月28日会津若松で開催の地区大会には、ガバナーノミニーを正式に決定する必要があり、緑川氏の代りとして8月20日に私にその話があったのであります。これは余りにも突然でもあったし、ロータリーに対する私見もあり、また医師としての職業上の問題もあり期間中ガバナーとしてその任務を果し得るかどうか懸念があったので、少からず悩んだのであります。そして3、4日悩んだ後23日の夜でしたが雷明の強い日に目を覚し(当時不眠症の気味があり常にまくらもとに本をおいていた)何げなくそばの本をとったらロータリーの友でありました。その記事の中に、

「何か新しいことをはじめるに当って、危険をおかすことがいやだからといって、ためらってはならない。失敗する勇気を持って」

というのがあって、これが私の心を強く刺激しました。これだと思いました。即ち病気をして2度と微起出来ないような病人を考えるならば、出来るとか、出来ないとか、あるいは営業がいそがしいなどということを考えるべきではない。自分は元気だからやるべきであるということが強く私の心を打ったのであります。

それですぐ大学にいる息子に連絡して帰ってもらい納得を得ました。これが9月15日でその後9月28日の会津若松の地区大会に出て正規の指名を受けたのであります。

そういう訳で、即ち失敗する勇気があってはじめて発展が生れてくるのでないかと思えます。

私は以上のような経過でガバナーノミニーの選考を受けて、米国で5月19日から約8日間の教育を受けたのでありますが、そのとき今のウォークRI会長が、我々ガバナーノミニーに講義した中に次のようなことがありました。

即ち今から13年前に、リークプラスクラブに現役のノミニーが集って教育されたときのこと、その中に神経痛のため医師から、寒い地方に旅行するなど注意を受けたガバナーノミニーがおったとのこと。その方は家庭の事情で、単身で米国に行ったのだそうです。米国のリークプラスクラブに出ますと単身者は単身者同志で部屋を与えられ、夫人同伴の方は夫婦で一部屋を与えられたそうです。そういう訳で彼は他の単身者と同部屋になったのですが、その単身者はブラジルの方で英語がわからず、言葉は通ぜず相互の意志が通じなかったそうです。しかもそのときの教育はリークプラスという山中の高地で4月のみぞれの時期に行われた上、宿舎から会場までは4マイルも離れていたとのこと。

それで神経痛はいたむし、言葉は通ぜず、非常に心もとなくなって思い悩んだとのこと。そして1日、2日と教育を受けているうちに米国のバスターガバナーと知り合いになり、その人と話しているうちに、次第にロータリーの知識を得て考え方が変わってきて、帰る頃には、ガバナーとしてやってゆけるでな

いかという自信をつけていったそうです。それにやらねばならぬという意志意慾も固まったとのこと。そのガバナーはNo.13の席にいたスエーデンのアーネットGフライトホリスという人で、その人はウォーク会長の次にRIの会長になる方とのこと。

そういうえらくなる方も13年前にはそのような悩みをもっていただということを、自分達の気持がわかるように話してくれました。

それで私も気を強くして、やはりエラくなる人も、それなりに悩みがあるものだということをつくづくと感じました。

考えてみると人の心はうわべしかわからないが、それぞれ悩みを持ちながら、それなりの奉仕活動をしているものだと考えると、今の話をきいて、それなら自分みたいな田舎者が出たら悩みを持つのは当然ではないかという気持になって、その話をきかされてから、特に軽い気持で、明るい気分になりました。

次に秋田の地区協議会で私が会長さん等に会長増強のことについてふれましたが、その後あとを追いかけるように、理事会の方から更にまた会員をふやせといっただけでまいりました。

それに対して私は強く抵抗を感じるのであります。しかしそれはウォーク会長の本心ではないと思います。ウォーク会長は、ロータリーの数がふえたのだから、あとは改善あるのみと明確に言っております。しかし理事会の方としては会員がふえれば財政も豊になるのでロータリーの発展に寄与するということで増員運動を指示してきたものと思います。

今ここで申し上げたいことは、これは、国際ロータリーは全世界のロータリークラブの会長、幹事に向って書いたもので、決して個々のロータリーに言っているのではないことです。

ですからやるか否かはクラブの自主性において解決すべき問題だと思います。ところが多くのロータリークラブは、RIから言われた、また地区ガバナーから言われたとなるとすぐそのようにやらなければならないということ強く考えるようであります。

国際ロータリーは日本だけに言っているのではないのです。各国をみると動いていないところが沢山あります。そういう人達を鞭撻する目的として、そこだけに限らず、皆同じ手紙を出しているのです。

即ち、ここだけに言っているのではないこと

を考えれば、自ら途も開けてくるでないかと思えます。

1人会員をふやせと言われたのが、再度ふやせと云われて矛盾を感じる憾ないではないのですが、地域によっては大きなギャップがあります。例えばポールハリスフェローの場合日本には260名余居り米国に次いで多人数です。日本の次は僅か7名しかいないのです。西独では一人もおりません。このように大きな差があるので、そういうことを考えると神経をいらだたせてむきになる必要はないと思えます。勿論努力して頑張ることは至極結構なことです。

また日本は僅かの土地で3万でも1.5万の人口でもクラブを2つつくれとか3つつくれとかいわれ、ハイハイといって応えておりますが、シカゴのような大都市でロータリー発祥の地ですら僅か1つのクラブしかないのです。

米国では50万以上の人口の都市でロータリークラブをつくっていないところが14都市もあります。何故つくらないかと云うとそれなりの保守性があるてつくらないようです。

そこで国際ロータリーでは人口50万以上でクラブ1つしかなく、アディショナルクラブのないところは、強制的につくらせる提案がありました。これに対してシカゴの連中は、自分達に対して暴力をもって屈服させるということで断乎として反発論斗しました。しかしそのときは多数決でつくることが通過しましたが、大会では否決になりました。

ここで大会開催のことを思い浮べましたが今までは規程審議会をやる大会は全部米国でやっているのです。ですから出席者も、米国人が多く、米国の都合の悪い提案は否決されてきました。このように規則を改正したりする会議は全部米国だけでやっているのがあります。今までは大会は決議機関であり、規程審議会は単に規程を審議して意見をつけて大会に具申するだけのものでありました。

ところが、大会は委任状をもって議決に参加する訳でなく一般のロータリアンが集るだけです。ですから内部構成上のアンバランスあることは当然であります。

規程審議会は、地区の代表が、クラブの数だけの委任状をもって行きますので、組織の発言という点からみると一番合理的なものと言えます。そこでこれからは、すべての議案は規程審議会で決めようということが決定になりました。規程審議会で決ったことをRIの事務総長が、全クラブにそのことを書面で通知し、賛否を採って、全クラブの10%以上が不賛成のときには次の大会で投票権のある人達が集って再審議するということになりま

した。(10%以下であれば、規程審議会が決議として動力を発揮するのです)

次にRI理事会のメンバーを14名から17名にするという提案もパスしました。これらも新旧世代のロータリアンが長時間の論争を経て決ったものです。しかし増員分をどの地域からふやすかという提案も出たのですが、それは反対派の工作で上提しなさいでしまいました。どこの地域にふやすかは、RI会長が任命した特別委員会をつくって、これに決定を委すことになったのです。

その原案はアジア地域から1名ラテンアメリカから1名他に1名となっているとのこと

です。アジアから1名ふえるので、日本は常任理事国になり、あと1名がマニラかどこかで交替にもつようになりそうです。

さて我々はどこかの協議会に出る場合に、クラブとして意見をまとめて行くとしても、決議は控えるべきというものであります。飽までも相手の話をきいて、その上で決議を出すべきであって、はじめから結論を出すべきでないと思っております。即ち相手の言い分も充分にきいて、こちらの意見も述べ、論議してすすめなければなりません。

次にウォーク会長は、環境公害、空気、河川、海、等の公害、交通災害等沢山の公害ギャップがあり、その他に青少年の問題、国と国との問題、地域社会の問題などいろんな問題に対して、会員皆が協力検討して頑張て行かねばならないと言っておられます。

またアポロ8号が月世界に到達したのは、あすこまで発展した米国の地球宇宙局の組織の力であります。

凡人をして非凡な力を発揮せしむるものは組織の力であるという言葉があるそうであります。もっともと思えます。

ロータリーは御承知のように148国15,000クラブで70万人になんなんとする世界の偉大なる組織であります。これから偉大なるロータリーの力を発揮するのは、国際ロータリーの会長でもなく、地区ガバナーでもなく、またクラブの会長、幹事でもない。我々一人一人のロータリアンが、手をつなぎ合い、組織を活して行くことが、立派な結実につながると思います。どうか残された年度を皆で手をつないで協力下さるようおねがいします。

幹事報告

会報到着 郡山、天童、八戸、八戸東、尾

花沢の各RC

例会変更案内

温海RC 11/23(月)→11/26(木)PM12.30

仁賀保RC 11/26→12/3

山形RC 12/9(木)

丸久デパート→産業会館6階